

評価基準の変更等について

【見直しの目的】

昨年度までの研究課題評価は、評価調書の記載量が多く、総合評価を決定するに当たって、評価関係者の負担が大きくなっている。また、研究の課題設定や進捗状況について県民に説明責任を果たすことが必要であるが、評価結果に至った理由等が理解しづらいものとなっている。

そこで、研究課題評価をより分かりやすいものとし、評価関係者の負担軽減することを目的に、評価基準及び評価調書の簡素化をした。

【概要】

1 中間評価について

(1) 評価項目の変更

目標達成可能性の観点のうち、「進捗状況」と「目標達成の阻害要因の状況」を統合し、「進捗状況及び目標達成の阻害要因」とした。

(2) 項目別評価基準の変更及び配点の設定

- ① 各項目の評価4段階（A～D）評価から3段階（a～c）とした。
- ② 「進捗状況及び目標達成の阻害要因」は、進捗遅れや阻害要因があってもその後の努力によって挽回でき、最終到達目標を達成できるようであればb評価とするようにした。
- ③ 「a：3点」、「b：2点」、「c：1点」と配点する。

(3) 総合評価基準の変更

総合評価は、項目別評価の合計点で決定することとした。

2 事後評価について

(1) 評価段階の変更

「研究成果の評価」を4段階から3段階評価とした。

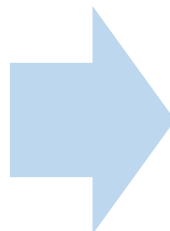
(2) 総合評価基準の変更

総合評価は、項目別評価の合計点で決定することとした。

■ 中間評価の変更点

<旧項目別評価基準>

観点	項目	評価
必要性	ニーズの変化	A: ニーズの増大とともに研究の目的の意義も高まっている B: ニーズに大きな変動はない C: ニーズの低下とともに研究目的の意義も低くなってきている D: ニーズがほとんどなく、研究目的の意義がほとんど失われている
有効性	効果	A: 大きな効果が期待される B: 効果が期待される C: 小さな効果が期待される D: 効果がほとんど見込めない
目標達成可能性	状況捗	A: 計画以上に進んでいる B: 計画どおりに進んでいる C: 計画より遅れている D: 計画より大幅に遅れている
	の阻目 状害標 況要達 因成	A: 目標達成を阻害する要因がほとんどない B: 目標達成を阻害する要因が少しある C: 目標達成を阻害する要因がある D: 目標達成を阻害する要因が大いにある

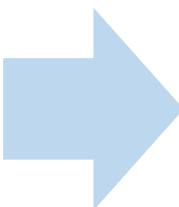


<新項目別評価基準>

項目	評価
状況変化	a: ニーズの増大とともに研究の目的の意義も高まっている b: ニーズに大きな変動はない c: ニーズの低下とともに研究目的の意義も低くなってきている
効果	a: 大きな効果が期待される b: 効果が期待される c: 小さな効果が期待される
達成捗の状況 阻害及 要 因 目標	a: 計画以上に進んでいる b: 計画どおりに進んでいる、又は、進捗の遅れや目標達成の阻害要因はあるが、今後の努力により、当初計画どおりの成果を達成できる見込みである。 c: 進捗の遅れや目標達成の阻害要因があり、最終到達目標を達成できない恐れがある。

「a：3点」、「b：2点」、「c：1点」を配点

評価項目を統合。
a~cの3段階評価とし3~1点を配点。
進捗に遅れがあっても、挽回できるようであれば普通のb評価とし、当初目標の達成に支障がある場合はc評価にする。



<旧総合評価基準>

評価結果	判定基準
A	当初計画より大きな成果が期待できる すべての評価項目がA
B+	当初計画より成果が期待できる 全てB以上かつAが2 or 3
B	当初計画通りの成果が期待できる 全てB以上 (B+評価除く)
C	さらなる努力が必要である Cがあり、Dはない
D	継続する意義は低い Dがある

<新総合評価基準>

評価結果	判定基準
A	9~8点
B	7~6点
C	5~4点
D	3点

項目別評価の合計点で総合評価を決定する

<旧項目別評価基準>

観点	項目	評価
目標達成	最終到達目標の達成度	A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：達成できなかった
有効性	研究成果の効果	A：効果大 B：効果中 C：効果小 D：効果測定困難



<新項目別評価基準>

観点	項目	評価
目標達成	最終到達目標の達成度	a：十分達成できた b：ほぼ達成できた c：達成できなかった
有効性	研究成果の効果	a：効果大 b：効果中 c：効果小

「a：3点」、「b：2点」、「c：1点」を配点

3段階評価とし3～1点を配点

dは削除

<旧総合評価基準>

評価結果	判定基準
S	当初見込みを上回る成果 二つの評価項目がともにaの課題のうち特に優れる課題
A	当初見込みをやや上回る成果 二つの評価項目がともにaの課題（S評価に該当する課題を除く）
B	当初見込み通りの成果 二つの評価項目がともにb以上の課題（S評価、A評価に該当する課題を除く）又は二つの評価項目がAとCの課題
C	当初見込みをやや下回る成果 二つの評価項目がともに又はいずれかがC以下の課題（B評価、D評価に該当する課題を除く）
D	当初見込みを下回る成果 二つの評価項目がCとDの課題



<新総合評価基準>

評価結果	判定基準
A	6点
B	5~4点
C	3~2点

項目別評価の合計点で総合評価を決定する